学校教育目標 「心は一つ八景小！ 自分らしさを発揮し、認め合い、思い合い豊かに生きることができるようにします」

12月 学校だより

令和5年11月30日
横浜市立八景小学校
校 長 中川 琴似

https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/hakkei/

学習の一幕から

副校長 小林 崇

「みそ汁はみそを入れるだけでなく、だしをとることでみそ汁の味や香りを引き立たせてくれるんだと思いました。」
「次は実際につくってみて確かめたい。ほかのだしではどうなのか知りたい。」
「自分はかつおだしが好きなのでかつおだしのみそ汁を作ってみたい。」

5 年生の子どもたちが家庭科の時間にみそ汁のだしについて学んでいます。学習後は、子どもたちが思い思いに上記のような感想や新たな課題を学習カードに記入しました。この授業では、「だし入りみそ汁」と「だしなしみそ汁」を一人一人が試飲したり、だしの煮干しを分解して観察したりして気づいたことを自分のみそ汁づくりにいかすことがねらいの一つです。子どもたちは体験的な活動を通して、今までぼんやりとしていた「だし」について上記の言葉の通り、一気に関心が広がったように見えました。この時授業を参観していた私も同じです。「だし」への興味が一気に広がり、職員室に戻るとすぐに「みそ汁でどんなだしを使ってますか？」とその場にいた職員に尋ねてみました。すると煮干し派、顆粒派、パック派、入れない派など多様です。中には複数を合わせるハイブリッド派の方もいました。その後、「だし」の話は尽きず、各家庭でのこだわり、それぞれで異なるだし歴について大変盛り上がりました。実は我が家はだし入りみそ派なのですが、「自分は多数派」と思い込んでいました。しかし、その場にいた人の中にはだし入りみそ派は誰もいなく、内心驚きました。

今回はたまたま「だし」の話で盛り上がりましたが、このことは日頃私たちが接している子どもたちの学習や生活の仕方にも通じるものがあると感じました。まず、一人一人が根拠をもって自分に合った方法（水だし？煮だし？）を選び、こだわりながら実践（だしは食べる？取り出す？）しているということ。正解はありません。遠回りでもいいし（高級？リーズナブル？）、試行錯誤（種類や配合を変えて？）もいいです。人から押し付けられるものでもありません（だし入りみそ OK!）。学習方法で例えると、長い時間をかけて習得、短時間で習得、朝勉強、夜勉強、書いて覚える、聞いて覚える、一人で学習、みんなで学習…。やり方は無限です。一人一人に合った方法を見つけるために学校で様々な体験をしていることを再確認する機会となりました。反省すべきは自分が陥ってしまったバイアスです。「自分は多数派」と思い込んでしまい、聞いてびっくり。同じ派の人はいませんでした。でもそのことを知ることができたので、次にいかせます。（まずは自分を知ることが大切。これが成長の第一歩！）

11 月 24 日は「和食の日」でした。給食室前には「だしで味わう和食の日」というポスターが貼ってあり、「だし」のよさが紹介がされています。家庭科の時間とリンクしながら、子どもたちがますます自分の生活をよりよくしようとする工夫ができるようになるといいです。

「だし」のいろいろ

鰹節（かつおぶし）だし 鯖節（さばぶし）だし 昆布だし 煮干しだし 椎茸（しいたけ）だし あごだし 野菜だし いりこだし などなど